

年 長 児 保 育 案

うみ組 男児17名 女児17名 計34名
担 任 中村 共芳 坂元 久美子

1 幼児の実態

子どもたちは、友達と一緒に遊びたいという気持ちをもって登園し、すぐに「〇〇くんはまだ？」と教師に聞いてきたり、「〇〇ちゃん、今日も昨日の続きをしよう」と友達を誘ったりする姿が見られる。最近では、積み木や段ボール、ままごとハウスなどに友達同士で入り、その場所を拠点として遊ぶ姿も見られる。それぞれの場所でイメージを共有させながら、新しいものをつくり上げたり、あるものを改良したり、役を決めて楽しんだりしている。楽しく遊ぶ中で、やりたいことを巡って意見が分かれてしまうこともあるが、自分たちで「じゃあこうしよう」と折衷案を探ったり、「それでいいよ」とどちらかの意見に合わせたりして、自分たちで解決する姿も見られるようになってきている。また、運動会ではチームを意識して応援したり、係の仕事をしたりするなど、年長児としての自覚をもち、練習や競技などに臨み、充実感や達成感を味わうことができたようだ。

園庭では、落ち葉や木の実などが落ちてきており、友達とそれらを見付けることを楽しんでいる。珍しいものがあると、教師に見せたり、それらを遊びの中に用いたりしている。園庭で遊ぶには気候がよく、鬼ごっこやリレーなどをして駆け回っている。鬼ごっこでは、氷鬼や色鬼、高鬼などいろいろな種類の鬼遊びが見られ、遊ぶ時のルールがある程度共通化され、仲間が増えたときには、集まって鬼を決め直したり、途中でルールが変わったときには、「鬼は白帽子！」などと他の友達に伝えたりして遊びを楽しんでいる。また、砂や水を使った遊びでは、水の混ぜ具合を工夫してたくさんの泥団子をつくったり、砂場に線路に見立てた線を引いたり、川や海をつくったりして楽しんでいる。

室内では、積み木や段ボール、牛乳パックを使って自分たちだけの空間をつくり楽しんでいる。積み木やマットを組み合わせてホテルや家をつくり、そこで料理するなどしてままごとをして遊ぶ姿が見られる。段ボールの家は、日によって子どもの入れ替わりがありながらたくさん子どもたちで楽しんでいる。壁や仕切り、家具などをつくって日々その形を変化させながら遊んでいる。牛乳パックの壁は、ままごとコーナーと併せて使うなどして遊びの中に取り入れている。また、この時期ならではのドングリを使って、こまをつくったり、楊枝やモールなどと組み合わせて自分のイメージするものをつくったりしている。

このように、友達と一緒に空間やイメージ、ルールを共有しながら遊ぶことを楽しむ姿が見られる。いざこざがありながらも、友達と一緒に楽しいと感じており、いざこざがあったから遊びが終わるのではなく、また一緒に遊びたいから解決しようと工夫し、遊びを進めている子どもたちである。

2 遊びの価値とねらい

「友達と遊ぶことが楽しい」と感じている子どもたちである。そこで、子どもが互いの思いを出し合いながら遊びを進めていく姿を大切にしたい。

積み木や段ボールなどの空間をつくる遊びや、砂場での遊びでは「こんな風になりたい」というそれぞれのイメージをもって遊ぶ中で、互いのそれぞれのイメージが異なるときがある。互いに自分のアイデアがよいと思っているので、そのよいところを認めたり、どちらも一緒にできるように工夫したりすることができるように配慮したい。互いの考えを出し合うことで、その空間が自分たちのものという気持ちが強くなり自分たちだけの空間だという特別な思いをもち、その空間を共有する友達とますます楽しく遊ぶことができる遊びとして大切にしたい。

鬼ごっこは、たくさん友達と一緒に遊ぶことができ、そのためにはルールを共有する必要がある。遊びを進めていく中で、最初のルールでは対応できなくなってくることもある。そんなときに一緒に遊ぶ友達と話し合いながら、自分とは違う考えをもつ友達の意見を受け入れ、ルールを整理しながら遊びを進めていくことになるだろう。自分たちでルールをつくり上げ、それを共有する楽しさを味わえる遊びとして大切にしたい。

友達と遊びを進めていく中で、友達の考えを受け入れたり、自分の考えと組み合わせたりすることでより遊びが楽しくなることを実感していく姿を大切にしたい。こうした経験を通して、自分の気持ちに折り合いをつけながら友達と協力し、共通の目的をもって遊びを進める楽しさを存分に味わうことへとつながっていくと考える。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 友達と話し合い、協力し合いながら目的をもって楽しく遊ぶ。
- 深まりゆく秋や初冬の自然を積極的に自分たちの遊びに取り入れて楽しむ。

(2) 内容

- 自分たちで工夫して園生活を楽しむ。
- 遊びの進め方や決まりなどを自分たちで話し合い、進めようとする。
- 遊びに必要なものを用意したり、場を工夫したりしながら互いのイメージを出し合い、表現し合うことを楽しむ。
- 友達と一緒に協力したり、相談したりしながら遊びを進め、やり遂げる充実感を味わう。
- 友達と体を動かして遊ぶ中で、役割を分担しながら、共通の目的を見付けて遊びを楽しむ。
- 自分たちの身の周りにある自然に興味をもってかかわり、自然物を使っていろいろな遊びを楽しむ。
- 食べ物(米やイモなど)の一連の成長について知り、その不思議さを感じたり、自然の恵みに感謝したりする。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 友達と話し合いながら、協力してつくったり遊んだりして楽しむ。
- 木の実や落ち葉などを見付け、深まりゆく秋を感じ、自分たちの遊びに取り入れて楽しむ。

(2) 内容

- 互いの意見を出し合いながら自分たちで話し合い、イメージするものをつくり上げていく。
- 友達と協力したり、相談したりしながら遊びを進めていく。
- 木の実や落ち葉などを見付けたり、自分のイメージするものをつくったりする。

(3) 保育に当たって

ア 人とのかかわり

- 友達と一緒に遊ぶと楽しいという気持ちを大切にし、より楽しさが感じられるような言葉掛けを行う。
- 友達と一緒に遊ぶ中で、互いの意見の違いを受け入れたり、よりよい解決の方法を考えたりすることができるように、必要に応じて子ども同士の橋渡しをする。
- 相手にとって気持ちのいい言い方や態度などができるように、必要に応じて適切な方法を知らせる。

イ ものとのかかわり

- イメージするものをつくることができるように、材料を準備しておいたり、子どもと相談したりしながら適切な材料を選んだりする。
- 友達とイメージするものが異なったときは、自分たちで話し合う姿を見守りながら、どちらのアイデアも聞き、互いのよさを生かすことができるように言葉掛けを行う。
- 道具を正しく使ったり、友達と交代で使ったりできるように、必要に応じて言葉掛けを行う。

ウ 自然とのかかわり

- 子どもが見付けてきた木の実や落ち葉などを一緒に見て、子どもの気付きに共感したい。
- 見付けた秋のものを遊びに取り入れようとする姿を大切にし、つくり上げた満足感に共感したり、つくりたいもののイメージに合う材料を用意したり提案したりする。
- 花や野菜の世話をし、成長の様子や種類による形などの違いに気付き、開花や収穫を楽しむにしながら、自然への関心を高められるような言葉掛けを行う。